

能登町文化財レスキュー-News^{ニュース}

第1号 発行日：令和6年4月5日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは？

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【3月29・30・31日 鵜川 河合家】



鵜川河合家での作業風景



久田船長の写真

河合家は、加賀藩に仕える武士であったといわれ、鵜川に住むようになってからは、藩の役人を務めていたようです。

今回のレスキュー活動では、文化財防災センターや県・町の専門職員、大学教授や博物館学芸員らでつくる「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」（いしかわ史料ネット）から約20人が参加し、家屋裏の土蔵から歴史・文化資料を運び出しました。

古いものでは、江戸時代の村役人や土地に関わる古文書のほか、弘化



警防団の制服と関係書類



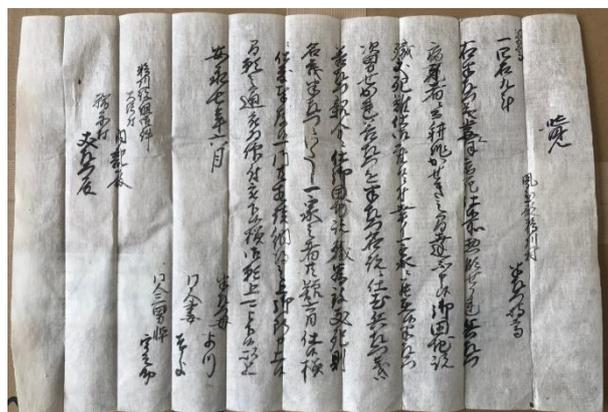
鶴川町役場前での記念写真（左） 鶴川町政實施期成同盟會看板（右）

4年（1847）と書かれた漆器が収納された木箱が見つかりました。また、明治36年（1903）に青函連絡船「東海丸」が津軽海峡で貨物船と衝突沈没した際、人命救助のために殉職した久田佐助（享年38）船長の写真など関連する品物も確認しました。その他、消防や災害などの防護に従事した「警防団」の制服や関連書類、「鶴川町政實施期成同盟會」の看板、鶴川町役場前での記念写真など、地域の歴史を物語る様々な資料が確認されました。

土蔵から運び出された資料は、クッション材や段ボールなどを使って丁寧に梱包され、町の施設に運び込まれました。

発見された資料解説

安永7年（1778）3月に鶴川村半左衛門（河合家当主）が病死し、その跡職（家督や耕作地など）について、惣領（家督継承者）の倅である兵左衛門（半左衛門長男か）が「病身者」のため、善左衛門（半左衛門次男）に「半左衛門」の跡職を相続させることを一門（親類一同）が願ったものです。宛所の「大沢村内記・稲舟村丈左衛門」は両名とも十数の村を指揮・監督する十村役です。



鶴川村半左衛門病死に付跡職相続願案

『能都町史 第三巻（歴史編）』には、河合家の先祖由緒帳が紹介されており、跡職を相続した半左衛門（後に六郎兵衛と改名か）は、山林資源をつかさどる「山廻役」などを勤めています。この他にも様々な資料が確認され、河合家の歴史を知る貴重な資料です。

資料解説文・いしかわ歴史資料保全ネットワーク 岩田裕斗